

学力とは何かを知り、学習の3段階理論と読解力を身に着け、
学校成績向上と第一希望校合格を果たそう(3)

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：先月は、「学習の3段階理論」の第1番目にあたる「理解」について、ポイントなどを教えていただきました。第2番目の「定着」とは何ですか。

A：(林明夫。以下省略)

- (1)よく「理解」できた内容を「身に着けること」です。
- (2)よく「理解」できたことも、「身に着けること」を怠ると、知識があやふやなままです。それではテストでよい点数が取れるはずはなく、学校成績向上や第一希望校合格を実現することができません。
- (3)ですから、「理解」できたことはすべて「定着」させることが大事です。

Q：「定着」させるためには何をすればよいですか。

A：開倫塾では、「定着のための3大練習」、つまり、「3つの練習」を奨励しています。

- (1)その第1は、「音読練習」です。学校や開倫塾の教科書や教材、問題集、授業ノートを声を出して「スラスラとよく読めるまで読む練習をすること」、できれば「何も見ないでスラスラといえるまでにすること」。
- (2)第2は、「書き取り練習」です。よく「理解」した内容につき、書けなそうな語句を「書き順も含めて、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで書く練習をすること」。
*英語は、ブロック体だけでなく、筆記体でも書けるように「書き取り練習」をすること。そうすると、筆記体で書かれた文章を読むことができます。また、筆記体でサインをすることもできます。ブロック体でのサインは、普通は考えられません。
- (3)第3は、「計算・問題練習」(まん中の「・」は「ポチ」と読んでくださいね)です。なぜそのような解答になるかがよく「理解」できた計算や問題は、「見た瞬間に条件反射で解答できるまでにすること」。
*例えば、3かける6がなぜ18になるかがよく「理解」できたら、 3×6 という計算問題を見た瞬間に、条件反射で18という答えが出てくるまで繰り返し練習することです。
- (4)「練習は不可能を可能にする」という、慶應義塾の小泉信三先生の教えがあります。「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績向上と第一希望校合格を実現する」と、開倫塾では考えます。

Q：第3番目の「応用」とは何ですか。

A：「理解」「定着」したことを用いて、

- (1)「学校の定期テストで満点が取れること」、
- (2)「入学試験や検定試験などで合格点が取れること」、
- (3)「社会で役立つことができること」です。

Q：学校の定期テストで満点を取るためにはどうしたらよいですか。

- A：(1)学校の教科書、プリントを含む教材、問題集、授業ノートを、テスト範囲についてスミからスミまで十分に「理解」したうえで、「定着のための3大練習」を繰り返して正確に「定着」させることです。
- (2)つまり、十分に「理解」したうえで「スミからスミまですべて覚える」、「丸暗記する」ことです。
- (3)「定着のための3大練習」が最も役に立つのが、定期テスト対策です。

Q：入学試験や検定試験などで合格点を取るにはどうしたらよいですか。

- A：(1)各試験で過去に出題された問題（これを「過去問題」、省略して「過去問」と呼びます）を最低でも5年分、できれば10～15年分を5～6回やり直すこと。
- (2)過去問をやりながら、間違えた問題をチェックして「間違いノート」を作り、このノートを繰り返し学び直すこと。
- (3)過去問をやりながら、大切なことをまとめて「まとめノート」を作り、これも繰り返し学び直すこと。
- (4)何回か解いた過去問の問題文や設問、選択肢、解答・解説などのすべてについて、教科書と同じ手順を踏んで、「定着のための3大練習」を根気強く何回も行うことを強くお勧めします。
- (5)試験勉強で大切なのは、次から次へと新しい本や内容を勉強することではありません。教科書やこれぞと決めた教材・問題集、自分で作ったノートを繰り返し学習し、「スミからスミまで覚える」ことです。何回勉強したかという「回数」が大切です。偏差値を1上げたければ1回、10上げたければ10回、20上げたければ20回学習しましょう。これが試験勉強の真髄(しんずい)です。

Q：読解力はなぜ必要なのですか。また、読解力を身に着けるにはどうしたらよいですか。

- A：(1)学校の教科書や教材、問題集をはじめ、定期テストや模擬試験、入学試験などの様々な試験はすべて、かなり長いまとまりのある文章で書かれています。そこで、大量の語句や文章の意味を正確に読み解く力、「読解力」が求められます。
- (2)「読解力」を身に着けることを怠ると、教科書に書いてあることがわかりません。また、試験問題の意味が読み取れず、時間内にすべて解き終えることができません。そのため、学校成績向上や第一希望校合格の実現は難しくなります。
- (3)「読解力」を身に着けるのに一番よい方法は、「辞書」を活用すること、「新聞」を毎日読むこと、「読書」に励むことです。
- (4)意味がよくわからないことばがあったら「気持ちが悪い」と思い、辞書で意味を調べること。調べた意味は「意味調べノート」に書き写すこと。「意味調べノート」は、毎日1ページ目から読むこと。これで、語彙(ごい)力が飛躍的に増強します。ことばは力、語彙力は力です。

- (5)新聞を毎日読むと、自分で考える力と批判的思考能力が身に着きます。
- (6)読書に励むと、思慮深さや自分自身を振り返る力、省察力が身に着きます。
- (7)辞書を活用すること、新聞を毎日読むこと、読書に励むことに最も適しているのは、学校や地域の「図書館」です。図書館の活用をお勧めします。

2017年6月16日(金)
(宇都宮大学大学院工学研究所客員教授)